



新潟県生産性本部会報

発行:新潟県生産性本部 会長 森 邦雄

No.13 夏号  
2023

# NPC NEWS

明日に向かって

ご回覧ください



## contents

- P2-P3 2023年度総会・記念講演会・交流会を開催!
- P4-P6 第13回 リレーエッセイ 「地域経営と観光 地域住民が果たす役割について」  
日本大学国際関係学部 准教授 金崎 賢希
- P7 公開研修7月以降のコースのご案内  
企業内教育(社内研修・講演会)講師派遣プログラムのご案内
- P8 会員紹介 株式会社 北越ペーパーテック新潟 (新潟県新潟市東区)
- (表紙:「花火」 作者 森 蒼衣 (新潟市中央区))

新潟市中央区新光町7番地2 新潟県商工会館4階 ※新潟県庁近く

電話 025-290-7127 FAX 025-290-7821



NIIGATA-KEN PRODUCTIVITY CENTER

ホームページQRコード

<https://www.n-seisanseihonbu.com>



## 2023年度総会・65th 記念講演会・交流会を開催!

**【総会】** 6月8日(木)、新潟グランドホテルにおいて、2023年度通常総会(役員会)を開催しました。

開会にあたり、森会長より挨拶、そして、笠島新潟県副知事よりご祝辞をいただき、審議に入りました。

議案審議では、2022年度の事業報告と収支決算、会計監査報告ならびに2023年度の事業計画と収支予算、各役員について審議され、全会一致で可決、承認されました。

また、2023年度の新役員、新入会員の方からご挨拶をいただきました。

ご多忙の中、総会にご臨席いただきました皆様には改めて御礼申し上げます。

今後とも一層のご協力・お力添えをお願いいたします。



新潟県副知事 笠島様よりご祝辞をいただきました!



当本部長の森より会員の皆様にご挨拶させていただきました!



監事より監査報告をいただきました!



### ～新入会員のご紹介(2023.6.8 現在) ～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

- ・グローバルサポート協同組合 様 (北蒲原郡聖籠町)
- ・新潟県議会議員 渡辺和光 様 (新潟市東区)

よろしくお願いたします♪

## 【65th 記念講演会】

昭和33年6月に設立された新潟県生産性本部は、本年（令和5年）、おかげ様をもちまして65周年を迎えることとなりました。

記念事業として、同じ6月8日、新潟グランドホテルにおいて、長岡市出身のオリンピックメダリストの中村真衣さんを講師にお招きし、「人生山あり・谷あり」と題して講演会を開催いたしました。当日は、当本部会員をはじめ、経済界、行政機関、大学の方々からご参加いただき、盛会となりました。

真衣さんからは、水泳を始めたきっかけやメダリストに駆け上がるまでの努力や苦労、そして、現役引退から現在までの活動など、映像を交えてお話しいただきました。現在、真衣さんは、スイミングアドバイザーとして子供から大人まで、幅広い年代にわたって多くの方々を指導されており、「Mai Cap 中村真衣カップ水泳競技大会」といった大会の開催等を通じ、水泳選手の育成や地域活性化にも取り組んでいらっしゃることでした。

講演会終了後には、真衣さんのご厚意で、希望される方へのサインやオリンピックメダルの撮影にもご協力いただきました。

競技人生を通じて、大きく羽ばたかれた中村真衣さん。その笑顔とサービス精神は、参加された多くの皆さんを魅了していました。



## 【交流会】

講演会終了後、真衣さんを囲んで交流会を開催いたしました。真衣さんのマネージャーの木尾さんからご参加いただき、盛会となりました。

これまで感染拡大防止として設置されていた飛沫防止パネルも無い中で、通常の形態で賑やかに交流会を開催できたことは、主催者としていたしましても、大変喜ばしく思いました。

交流会においても、真衣さんは各テーブルを回っての記念撮影やサインに快く応じていただき、参加者の皆さんから笑顔が溢れておりました。

サービス精神旺盛な真衣さんに、ただただ感謝でした。



## 地域経営と観光 地域住民が果たす役割について

日本大学国際関係学部 准教授 金崎 賢希

「観光を地域経営の柱に」と考えている自治体は多い。しかし、それは観光客を呼び込めばよいという単純な話ではない。最初は観光客が来て喜んでる自治体でも、キャリーイング・キャパシティー（*carrying capacity*：本来は積載量という意味だが、観光などでは収容能力・運営能力を意味する）を超えて、観光がもたらす負の側面に悩むところは少なくない。そうになると、地域として観光客をもてなそうとする雰囲気はなくなり、めぐりめぐって観光地としての吸引力も低下し、やがて廃れてしまう可能性がある。小論では、観光を活用した地域振興ないしまちづくりにおいて、地域住民が果たす役割について考えたい。

観光と経済には双方向的な関係があり、好調な経済は観光への投資を可能にし、健全な観光部門は経済成長を可能にするという点は議論を待たない。ただ、自然とそうなる、好循環のサイクルが回るというわけではない。観光による地域振興を持続的なものにしたいのであれば、受入側の地域住民の声は無視できない。観光による影響が全体としてプラスだからといって、それを住民がどのように受け取るかは別の問題である。もし住民が不満を抱くようであれば、観光振興に対する継続的な支持支援が得られないばかりか、地域振興の目標自体見失ってしまうことにもなりかねない。

とくに、単に観光を推し進めていくのではなく、どのようなタイプの観光をどの程度進めていくかということになると、それに対する地域住民の合意、支持支援が欠かせない。また、地域住民が観光の担い手として期待されるのであれば、なおさらのことである。近年、観光客が地域のオーセンティックな（真正性のある）経験を求めるようになっており、そこでは支持支援を超えた協力参加という住民の積極的な役割が期待される。そこで、課題となるのが、実際のところ、地域住民はどのような経過を経て、観光に対する支持支援、さらにはそれを超えた協力参加行動をとるようになるのか、そのメカニズムを解明することである。

そこで、参考になるのが社会交換理論（*Social exchange theory*: SET）に基づくモデルであり、そのモデルを用いた先行研究の結果である。SETは、観光分野の研究において、観光の影響に対する住民の認識と観光に対する住民の支持支援の関係を明らかにするために、もっとも広く用いられている理論である。SETは、社会学の一般的な理論で、多様な利害関係者間の互惠的な関係に注目するものである。期待利益をベースとした個人ないしグループ間で行われる活動や資源の交換プロセスとして、社会的相互作用をみている点に特徴がある。SETは、交換プロセスの利得構造が相互作用のパターンに及ぼす影響を探求しており、「人は交換に伴う期待利益がコストを上回ると判断したとき、その交換プロセスに従事する」と考える。人が社会的交換に従事する基本的な動機は利益の最大化である。個人の態度や行動的反応を引き出すメカニズムは、他者との交換（やりとり）から得られる期待利益に基づいている。

観光の文脈では、SETは、住民が観光振興を支持する基本的な動機がコミュニティの経済・社会的な生活の質（*Quality of Life*）の向上にあることを示唆している。もし期待利益がコストを上回ると住民が認識すれば、住民は観光振興を支持する傾向にあるといえる。SETの枠組みを用いて、住民が認識する観光の利益と観光に対する住民の態度の関係を検証した初期の研究では、経済的利益（またはコスト）のみに焦点が当てられてきた。しかし、観光振興の影響は経済的影響にとどまるものではない。住民が認識する利益やコストには、経済、環境、社会文化的な側面も含まれる。そして、これらすべてが観光振興に対する住民の態度に影響を与えている（図を参照）。

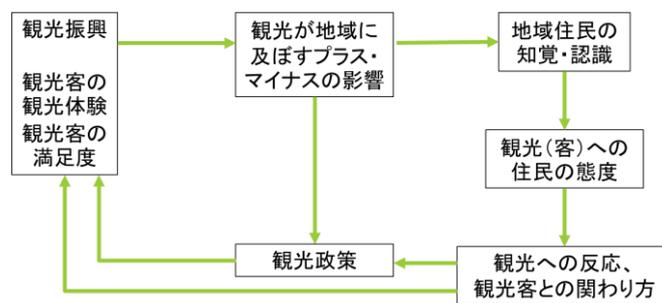


図 観光振興に対する住民の認識と反応 出典：Sharpley (2014)などを参考に筆者作成

たとえば、観光施設への投資は地域住民のレクリエーション資源を増大させるし、それがまた住民の一般的なQOLを改善する。加えて、そうしたことは地域住民のコミュニティおよび文化的なアイデンティティを高め、ひいては住民自身の自尊心を高めることにつながる。他方で、たとえば、さらなる観光振興の結果として、犯罪や混雑が増大するなど、住民が観光の社会文化的影響をマイナスに評価していることを示す研究もある。概していえば、先行研究は、観光振興に対する住民の態度は、潜在的な経済、社会文化、環境面での利益とコストの評価と大きくかかわっていることを示している。

しかし、同理論を用いたモデルには批判もあり、現在至るまでに、デモグラフィック・グループ、観光エリアとコミュニティの間の距離、観光への経済依存度、観光産業についての知識、コミュニティへの愛着、コミュニティへの関与や関心、政府に対する信頼、利害関係者間のパワー関係、現地コミュニティにおける観光の役割、地域のアイデンティティ、観光のタイプと形態など、SETをベースにしながらも、それに調整変数やコンテキストを組み込んだ研究がなされている (Gursoy *et al*, 2019; Woo *et al*, 2019)。

たとえば、地域への愛着に注目した研究では、Davisら(1988)は、地域への愛着が観光振興に対する住民の肯定的な反応に関係する重要な先行要因であるとしており、Jurowskiら(1997, 2001)も地域への愛着をもつ、そして地域の活動に関与している(メンバーシップを獲得している)人の方が観光の経済・社会的影響をより肯定的に認識すると述べている。しかし、McCoolら(1994)は、観光振興に対する住民の認識とコミュニティへの愛着度の関係を検証し、高い愛着をもつ住民はそうでない住民と比べて、より観光振興のコストや影響について懸念を抱いていると述べている。さらに、Ramkissoon(2023)は、場所への愛着が自発的かつ積極的な社会的行動や環境保全行動に影響を与えており、それが観光支援参加行動につながることを明らかにしている。

このうち、Ramkissoonの研究は、現在日本の多くの地域でも展開されているジオパーク運動にも重なるところがあり、大変興味深い。ジオパークとは、地質や地形を見どころとする自然(大地)の公園を意味する。貴重で美しい地質や地形を含めた自然遺産を保全するとともに、ジオツーリズムを通じて地球科学の普及や環境教育などを行い、さらにこれらの遺産を観光資源として活用して地域社会の活性化を目指すものである。観光客は旅行を楽しみながら、現地の暮らしぶりやそれを育んできた自然環境を楽しむ一方、住民は地域の自然・文化・伝統への誇りと自然保護にも目を向けるようになることが期待されている(日本地質学会ジオパーク支援委員会)。新潟県には糸魚川や佐渡があるが、たとえば、筆者が以前勤務していた青森県では、下北ジオパークの柱として、地域の自然や文化、伝統、産業のつながりを考え、地域の子供たちに勉強してもらう活動をしている。それらは、地域への誇りや愛着を育てることにつながり、観光客に対する地域全体のおもてなしの在り方にも影響を与えている(下北ジオパークについては<https://shimokita-geopark.com/>を参照)。



写真 下北ジオパークの試み 出典：いずれも「広報むつ」2017年9月号より（むつ市発行）

いずれにしても大事なことは、小売業における商圈調査や顧客満足度調査と同じで、単にデータを集めるだけでなく、素直に冷静に厳しく分析し、どのようなサービスを行っていくのかといったことを具体的に考えるための材料としなければならない。地域住民は現在の観光振興策を支持しているのだろうか、支持していないとすればどこに原因があるのだろうか、将来の観光振興はいかにあるべきだろうか。たとえ同じモデルを用いたとしても、地域によって観光振興の段階や観光のタイプが異なるため、その結果にも地域間で違いがみられるはずである。地域経営を担う関係者はこうした点を解明して、観光と経済の好循環のために必要な施策を打つ必要があるだろう。

## 6

- Davis, D., Allen, J., & Consenza R. M. (1988) "Segmenting Local Residents by Their Attitudes, Interests, and Opinions Toward Tourism", *Journal of Travel Research*, 27(2): 2-8.
- Gursoy, D., Ouyang, Z., Nunkoo, R., & Wei, W. (2019) "Residents' impact perceptions of and attitudes towards tourism development: a meta-analysis", *Journal of Hospitality Marketing & Management* 28(3):306-333.
- Jurowski, C., Uysal, M., & Williams, D. R. (1997) "A Theoretical Analysis of Host Community Resident Reactions to Tourism", *Journal of Travel Research*, 36(2): 3-11.
- Jurowski, C., & Brown, D. O. (2001) "A Comparison of the Views of Involved versus Noninvolved Citizens on Quality of Life and Tourism Development Issues" *Journal of Hospitality & Tourism Research*, 24(4): 355-370.
- McCool, S. F., & Martin, S. R. (1994) "Community Attachment and Attitudes Toward Tourism Development", *Journal of Travel Research*, 32(3): 29-34.
- Ramkissoon, H. (2023) "Perceived social impacts of tourism and quality-of-life: A new conceptual model", *Journal of Sustainable Tourism*, 31(2): 442-459.
- Sharpley, R. (2014) "Host perceptions of tourism: A review of the research", *Tourism Management* 42: 37-49
- Woo E., Uysal, M., & Sirgy, M. J. (2019) "What is the nature of the relationship between tourism development and the quality of life of host communities?" in *Best Practices in Hospitality and Tourism Marketing and Management: A Quality of Life Perspective*, edited by A. M. Campón-Cerro et al, 43:62.

## 金崎 賢希 Masaki Kanezaki

1972年東京都生まれ

早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程、

早稲田大学商学部助手、青森公立大学専任講師などを経て現職。

専門は国際経営、とくに国際マーケティング。



## ☆2023 公開研修 7月以降のコースのご案内

新しい価値を創造し未来を拓くリーダーの育成、若手・中堅社員の離職防止、雇用労使安定など、皆様の課題解決に向け、公開研修を開催いたします！是非ご参加くださいますようお願いいたします。

6月27日(火) 7月13日(木)	<b>主任・係長基礎コース (実践期間を挟んだ2日間)</b> ～職場を支える、さらなる中核人材を目指して～	日本生産性本部 人材開発ツカサト 栗林 裕也 氏
7月19日(水) *1日コース	<b>自分が起こしたエラーから学ぶ _ ヒューマンエラー対策</b> ～ヒューマンエラーを他人ごとから我がごとにするために～	バリュー・プロダクツ 代表 三宮 直人 氏
8月4日(金) *1日コース	<b>リーダーシップ実践コース</b> ～価値観多様化時代に「成長」を実現するリーダーとしての姿勢とパワー～	日本生産性本部 加地リツグ マチ ムトセツカ 星名 英樹 氏
8月24日(木) *1日コース	<b>ファシリテーションコース</b> ～会議から組織を変える! 理想の組織づくりと会議運営の達人を目指して～	日本生産性本部 人材開発ツカサト 栗林 裕也 氏
9月6日(水) *1日コース	<b>コーチング・OJT 実践コース</b> ～部下の活躍を促進し、成果と成長につなげる考え方とスキルを学ぶ～	日本生産性本部 加地リツグ マチ ムトセツカ 星名 英樹 氏
9月13日(水) *1日コース	“え?そんな見方もあるの!!” <b>簿記経験のない方でも理解できる決算書の読み方・活かし方</b> ～金融機関は決算書をどうみているのかを元銀行マンが伝授!～	パートナーズコンサルティング 代表 江部 誠一 氏
10月5日(木) 10月24日(火)	<b>管理職基礎コース (実践期間を挟んだ2日間)</b> ～持続的に職場の目標を達成するためのリーダーシップとモチベーションの強化へ!～	日本生産性本部 人材開発ツカサト 栗林 裕也 氏
10月17日(火) *1日コース	<b>若手社員フォローアップ研修</b> ～最後のチャンス!信頼されるビジネスパーソンの基本～	㈱マナーズ 代表取締役 山田 節子 氏
10月26日(木) *半日コース	<b>ダイバーシティ・コミュニケーション研修</b> ～言いにくいことの伝え方～	(元 NST 新潟総合テレビ アナウンサー) 菊野 麻子 氏

### 【新潟県生産性本部の公開研修の特徴】

- ◇少人数制で講師、参加者との積極的な交流を通じ、相互啓発を促します。
- ◇2日間コースは職場での実践を挟んだ研修となっており、1回目に学んだことを職場に戻って実践いただき、2回目の研修に参加いただくことで、より高い研修効果が期待できます。
- ◇グループワークが多く、他の参加者の意見や問題点、解決策を知ることができ、考え方や取組姿勢なども含め、新たな気づきを得ることができます。
- ◇経験豊富な講師の体験談なども聞くことができ、休憩時間や研修終了後の講師への質問もしやすいです。
- ◇様々な業種の方にご参加いただいていることから、異業種交流の機会も広がり人脈や知識が広がります。
- ◇全コース修了証を授与しています。
- ◇お得な割引制度があります! ※同一コース3名以上は1名につき1000円、5名以上は1名につき1500円受講料を割引いたします。
- ◇1日以上コースはランチ・ワンドリンク付、半日コースはワンドリンク付です。 など



※研修カリキュラムなどの詳細はホームページをご覧ください。

## ☆企業内教育(社内研修・講演会)講師派遣プログラムのご案内

皆様方の組織の経営課題に向けた研修プログラムの開発・実施をお手伝いいたします。

人材育成のトレンドから階層別研修など、社内研修や講演形式のセミナー、記念講演会講師派遣など、ご要望に応じて、ご提案いたします。

先ずはお気軽にお問い合わせください(\*^▽^\*) ♪



## 株式会社北越ペーパーテック新潟

代表取締役社長 田中 正樹

設立 1967年11月15日

住所 新潟市東区榎町57

電話 025-273-2097

北越ペーパーテック新潟さまに

Q&amp;A



## Q1 御社の事業内容について教えてください!

A 当社は、北越コーポレーション株式会社のグループ会社で、北越コーポレーション(株)新潟工場が製造した洋紙(印刷・情報用紙)及び白板紙を断裁・包装し製品として仕上げる業務を受託する紙加工会社として1967年に設立されました。原料のパルプから製品までを一貫生産する製紙工場として国内最大級である新潟工場の仕上げ部門であり、紙加工会社では国内最大規模で、当社が仕上げた製品のほとんどは印刷業者様向けで、皆さまのお手元に届く頃には雑誌、書籍、カタログ、チラシといった形になっています。

## Q2 当社が一番力を入れていることについて教えてください!

A 人と自然が共生する社会の実現を目指し、2050年までにCO<sub>2</sub>排出実質ゼロにグループを上げ挑戦しています。

また、当社設備は、すべて新潟工場の敷地内にありパルプの製造時に発生する黒液や建築廃材を燃料としたバイオマス発電で作られた電気を主に使用し、機械設備やバッテリー式フォークリフトを動かしています。現在、北越グループのゼロCO<sub>2</sub>排出エネルギー比率は、業界平均の55%を大きく上回る70%と業界トップレベルではありますが、CO<sub>2</sub>排出実質ゼロはもちろん環境負荷のさらなる低減を目指し、省エネや工程の改善・包装資材の再利用等、当社も北越グループの一員として環境問題への取り組みに全面的に協力しています。

## Q3 御社の企業理念や行動指針について教えてください!

A グループ企業理念として『私たちは人間本位の企業として、自然との共生のもと技術を高め最高のものづくりによって、世界の人々の豊かな暮らしに貢献します』を掲げ、グループのすべての役職員が、グループ企業理念の実現に向けたあらゆる活動において遵守すべき基本的なルール：グループ行動規範を定めています。

当社も未来志向の企業として、人、環境、技術、ものづくり、未来というキーワードを基本に企業価値の向上、即ちグループ全体の価値向上に寄与すべく、日々生産活動を行っています。

## Q4 代表者様からメッセージをお願いします!

A 多くのお客様や地域の方のご支援・ご協力をいただき昨年、設立55周年を迎えることができました。

心より感謝申し上げます。

近年、電子媒体の普及によるペーパーレス化が広がり、紙の需要は年々減少傾向にあります。当社では、このような状況だからこそ未来を見据え、機械設備の自動化やIT化・DX化への投資を行い、生産性の向上、省力化や品質向上を推進することで逆境に負けない競争力の基盤構築に取り組んでいます。

紙の需要が減少している一方、SDGsへの取り組みの一環として、プラスチック製品がリサイクル率の高い紙製品への転換が広がりを見せています。「紙」を扱う企業として、持続可能な社会実現の一助となるべく、やりがいを持って挑戦を続けて参ります。



この会報を通して、会員の皆様をご紹介させていただきます。企業団体様のPRの場としてご活用いただけると幸いです。このたび、ご協力いただきました(株)北越ペーパーテック新潟様 ありがとうございます。

新潟県生産性本部では、会員を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

制作・発行 新潟県生産性本部 会長 森 邦雄 編集等担当 長谷川 mail: info@n-seisanseihonbu.com